

アサーティブジャパンは、アサーティブネスを広く人々に知っていただく活動の一環として、「アサーティブネスの伝え手（トレーナー）を育成する」という大きなミッションを持っています。これまでアサーティブジャパンのトレーナー養成講座を修了された方々は、北海道から沖縄まで全国各地のそれぞれの現場でアサーティブネスを伝える活動を展開しています。

今回の「トレーナーへの道」では、東京都清瀬市在住のトレーナー、増田恵美子さんの活動をご紹介します。増田さんは清瀬市で子育て支援を15年間、コツコツと続けてきました。初めはボランティア活動から、そのうち市の委託事業を受けるようになり、現在はNPO法人として地域になくはならない存在となっています。どんなことに苦勞し、どんなことを大切にしながら活動を続けてきたのか、またアサーティブネスが子育て支援にどう関わるのか、ざっくばらんに語っていただきました。



子育てママの力になりたい！ アサーティブネスでママ・パパを元気に

アサーティブジャパントレーナー会員 増田恵美子さん（東京都清瀬市）

プロフィール：2006年東京・トレーナー養成講座修了。東京都清瀬市在住。1995年、新生児訪問指導員として仕事をすることをきっかけに、子育て支援のボランティア活動を始める。2006年にはNPO法人ウイズアイを設立。2008年には子育て支援の家「あいあい」を開設し、子育て中の親にとっての第二の実家、駆け込み寺になるよう、市からの委託や助成金を受けながら子育て支援を続けている。
ウイズアイのホームページ：<http://www.blbhome.com/~kiyosej/>

ボランティア活動を始めた15年前は、子育て支援というものは一つ無く、赤ちゃんを産んでもどこにも行き場がなく、市の乳児健診ぐらいしか、子どもを育てているママ同士の出会いの場はありませんでした。

新生児訪問も、制度上生後2ヵ月までしか行くことができず、訪問した親子のその後を知る手だてが無いことが、とても残念でありませんでした。なんとか訪問した親子には、自信を持って母乳育児で育てて欲しい。そのためにも、継続して「今のままで大丈夫だから」と言ってあげる場が必要だと強く思いました。たまたま、同じ思いをもつ訪問指

導員の仲間がいたので、彼女と2人で、孤独で不安いっぱいの密室育児に苦しんでいるママたちの出会いの場を作っていました。

訪問させていただいたママたちを“お見合いさせる”だけなのですが、そういう場を求めていたママたちから支持されました。初めの頃は、ポスターやチラシなどは一切なし。訪問させていただいたママたちだけが知っている、知る人ぞ知るという感じでした。毎回参加してくださるので、数はふくれあがる一方。参加者が少なくて悩むということもなく、ママたちは笑顔で帰って行くし、好きなことを好きなようにやれて、楽しかったです。お金が欲しいわ